

No.14
2003.1.31

いしかわの遺跡

第4回古代体験まつり開催 「スーパージョウモンショー」



今年度は、第4回となる古代体験まつりを10月5・6日に開催しました。6日には金沢文化服装学院の協力を得て、縄文時代のファッションをイメージしたショーを行いました。衣装は、学院生16人が自由な発想と豊かな想像力で、麻製布を素材に土器や土偶の文様を付けるなど、遺跡からの出土品を参考に創作しました。ショーの企画も学生達が中心となり、地元の小学生11人も参加して、とても楽しい催しとなりました。

財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731
E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp
ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

平成14年度発掘調査から

小島西遺跡

小島西遺跡は七尾市小島町地内、七尾湾に面した桜川河口付近に位置しています。今回、街路事業（都市計画道路川原松百線）に伴い発掘調査を実施しています。遺跡は標高1m前後の低地にあるため、調査は噴き上がる地下水と、軟弱な砂礫土になやまされています。

調査では古墳時代のもので、5世紀代の製塩土器、甕、高杯が多量に出土しました。

奈良・平安時代のもので、下層から多量の木製祭祀具が出土しました。斎串、人形、馬形、弓形、舟形等の種類があります。これらは、狭い範囲に集中すること、方向性が比較的整っていること、大型の製品が多いこと、棒状の製品が多いこと、自然木も多く含まれることが特徴としてあげられます。

戦国時代のもので、16世紀代の建物跡、石組井戸、土師器皿、漆器が見つっています。



遺跡遠景 かつての海岸線は遺跡の近くにありました。

下層(奈良・平安時代)の調査



木製品が次々と姿をあらわしてきました。



何とか、全体が見えるようになりました。



長さ60cmの人形です。上が頭、下が足の部分です。



種がたくさん出土しました。松ぼっくりもあります。



いよいよ取り上げです。木が非常にもろくなっているので慎重に……。



長い斎串です。ここからが腕のみせどころ。

矢田野遺跡

矢田野遺跡は小松市南部の矢田野町地内にあります。この地域に広がる月津台地にはこの遺跡以外にも、縄文時代から中世に至る集落跡、古墳などが多く存在しており、遺跡が密集しています。

発掘調査は、県営ほ場整備事業を原因として、数年にわたって実施してきました。今年度は、主に古墳時代の掘立柱建物跡や竪穴住居跡、古墳の周溝を確認しています。

掘立柱建物跡は10棟以上確認しており、大型の掘立柱建物跡の柱穴からは、土器の破片や牛もしくは馬と思われる顎骨と歯が出土しました。地面を掘り下げて作った竪穴住居跡は韓国のオンドル（床暖房施設）に構造が似ているカマドを備えていることから、当時、朝鮮半島から渡って来た人々が住んでいたのかもしれませんが。

周溝は古墳の周りを円形にめぐっていた溝で、大きさは直径約11mになります。この溝からは古墳時代の甕、壺、杯、高杯、提瓶、コシキ（蒸し器）、フイゴの羽口、鉄くずなど、生活日用品からお供えに使用する土器、製鉄道具まで多種多様のものが多量に出土しました。古墳の周溝として掘られたものが、いつしか、ごみ捨て場所として使われるようになったのでしょうか。



建物跡などが掘り終わったところ
(写真中央が竪穴住居跡)



掘立柱建物跡
(柱穴が7つ並んでいます)



古墳の周溝を掘っているところ



古墳の周溝から出土した土器

第4回いしかわの発掘展

七尾湾の縄文世界

6000年前の暮らしに迫る

平成14年8月1日～8月31日まで、当センターにおいて「いしかわの発掘展 七尾湾の縄文世界 - 6000年前の暮らしに迫る - 」が催されました。

縄文時代前期初頭の地球上では、温暖化が進んで海面が現在より1m前後高くなりました。この結果、干潟や遠浅の海岸が各地で出現して貝や魚などが簡単に手に入るようになり、海岸付近に多くの集落が営まれるようになりました。県内においても、能登の七尾湾や内浦で縄文時代前期初頭の遺跡が多く見つかり、今回、七尾湾沿岸にある貝塚跡の田鶴浜町三引遺跡や集落跡の能登島町通ジソハナ遺跡などの遺物を中心に約200点を展示しました。

展示は「古環境」「暮らし」「食材」「装い」などテーマ別に分かれました。「古環境」では現在と当時の海岸線の違いを写真パネルで紹介しました。「暮らし」のコーナーは三引遺跡や通ジソハナ遺跡出土のススのついた土器、石錘（魚捕りに使う網のおもり）、動物の骨でつくった釣針など生活に密着したものを置きました。「食材」のコーナーでは三引遺跡の遺物整理で見つかった動物の骨や植物の種や実、貝殻を展示しました。動物の骨にはイノシシ、シカなど陸上にいるものとイルカ、アシカ、魚類など海にいるもの両方見ることができます。木の実はクルミやクリなどがあり、遺跡の周りには多くの動物や植物が生息し、いろいろな種類の食べ物を食べていたことがわかりました。「装い」では三引遺跡で見つかった耳飾りなどの装身具の他に近隣の福井県や富山県で発見したものも展示しました。また、中国大陸やロシア沿岸地方でも三引遺跡出土の装身具と同じ形をしたものが製作されており、当時の人々が広いエリアで交流が行われていたようです。

この他に貝塚（三引遺跡）のジオラマや
ふんせき
礫石、土偶など普段あまりお目にかからないものもあり、縄文時代の暮らしぶりがイメージできる大変ボリュームのある企画展となりました。



発掘展会場



見学者の目をひいた三引貝塚のジオラマ



イルカ・シカなどの骨

第4回古代体験まつり

今年度は、10月5日(土)・6日(日)の2日間行いました。両日とも天気に恵まれ、2日間で1100人もの方に来ていただきました。いろいろなメニューを体験してもらい、多くの方に古代人のわざと知恵に触れてもらうことができました。その時の様子を紹介します。



オープニングイベントで、まつりの始まりです。



一番盛況だったのが、まが玉づくりでした。



たくさんの方の協力で、切り倒すことができました。



見本を見ながらじょうもんかごポシェットを作っています。



石包丁でアワの穂摘みに挑戦。



貫頭衣を着て、タイムスリップ。



縄文鍋と古代米の試食では、長蛇の列ができました。



牛乳を煮詰めて、古代の乳製品「蘇」を作っています。



形や文様をたよりに土器を完成させます。



脱穀体験。子どもたちもがんばっています。

普及啓発 その2 学習講座

学習講座は、埋蔵文化財センター古代体験ひろばを会場に、考古資料を活用した「本物志向」の体験講座です。今年度は、8回の講座を行いました。各回とも大盛況で、毎回参加される方もいます。

まが玉づくり5/25(土)



ガラス玉づくりにも挑戦しています。

古代機織り体験6/22(土)



弥生時代の原始機に挑戦しています。

縄文土器づくり7/6(土)



力強い土器ができてきました。

弥生土器づくり7/20(土・祝)



口縁部を作ってもうすぐ形ができあがります。

親と子の縄文土器づくり7/28(日)



集中力が大切です。

土器野焼き8/25(日)



弥生土器の野焼き風景です。

親と子のまが玉づくり9/8(日)



まが玉の歴史についてのガイダンスをしています。

須恵器づくり10/20・27(日)



手回しロクロとヘラを使い成形しています。

出土品整理 その5 写真撮影

実測図を作成し、本文を書き、最後に待っているのが遺物の写真撮影です。写真は、文章や図では表現できない情報を提供してくれます。

埋文センターには、写真撮影用のスタジオ「写場」が2つあり、遺物の種類や大きさ、撮影方法によって使い分けています。



大型ストロボ照明のある部屋。主にカラー撮影や大きいサイズのフィルムを使う撮影の時に使われます。特にストロボは、遺物の正確な色を再現したいときに威力を発揮します。



写場で使われているカメラ達。右から4×5インチ判カメラ、35mm一眼レフ、プロローニ判カメラです。デジタルカメラはまだ使われていません。



昔ながらの写真用電球を使った撮影もやっています。

左の写真は、辰口町^{かみとくさん}上徳山谷山西谷窯跡で出土した鳥形土製品（奈良時代末頃）の、4×5インチ判フィルム画像（実物大）です。遺物の特徴がよく出ているアングルを探し、遺物の質感を最大限に出す効果的な照明をするのがポイント。この1点を撮影するのに、遺物の設置 照明の調整（これが難しい）と1時間以上かけています。大きさは30cmくらいですが、なかなか雰囲気を出すのは難しいものです。

訪ねてみよう加賀・能登の遺跡

県指定史跡 地頭町中世墳墓窟(やぐら)群

富来町地頭町の中世墳墓窟(やぐら)群は、富来川の左岸で、海拔約70mの岩壁の中腹に海に面して作られています。これらは、昭和41年8月自動車修理工場の敷地造成のため、山頂から流出した土砂を取り除いたところ発見されました。岩壁には、方形に岩をくり抜いた小洞窟のようなものが連なっており、その中には石塔類が建てられています。1号窟・2号窟・3号窟には五輪塔が、4号窟には宝篋印塔が建てられています。また、五輪塔陽刻板碑を納めた6号窟、方錐型板碑を納めた7号窟も発見されました。この墳墓窟は通称「やぐら」と呼ばれ、主に武士の墓として中世の鎌倉地方に見られる墓制であり、富来町地頭町に現存していることには、とても重要な意味があります。



墳墓窟が並んでいる様子(1~4号窟)



五輪塔(1号窟)



宝篋印塔(4号窟)

富来町福浦港

ここでは、同じ富来町にある福浦港について紹介します。ここはかつて福良津と呼ばれ、渤海使節が来航した港として知られています。また、北前船が寄港したり、我が国最古の灯台である旧福浦灯台(県指定史跡)が建てられるなど、歴史の有る町です。地頭町中世墳墓窟(やぐら)群と合わせこちらにも足を運び、当時の暮らしに思いをはせるのもよいのではないのでしょうか。



旧福浦灯台

交通：能登有料道路西山ICより車20分

所在地：羽咋郡富来町地頭町地内

問い合わせ：富来町教育委員会生涯学習課 電話 0767 - 42 - 1111